



南平小だより 10月号

学校の教育目標（キーワード）（◎は重点目標）

◎かかんがえる子 ○つよい子 ○やさしい子 ○くじけない子

〒191-0041 日野市南平4-18-1 Tel(042)592-2021 Fax(042)592-2022



ホームページ二次元コード

31音に思いを込めて

校長 千葉 智弘

2学期が始まり、1か月が経ちました。学級では、2学期の目標を立てたり、係や当番を決めたりして、「さあ、2学期も頑張るぞ!」と張り切っている児童の様子が見られます。中には、運動会の応援団に立候補したり、他校の多くの先生方が参観した研究授業で手を挙げて発表したりするなど、張り切っている児童もあり、嬉しく思います。

さて、本校では、様々な分野において専門性が高い外部講師をお招きして授業を行っています。9月には、短歌の講師をお招きして、2年生以上の児童を対象にした「しきなみ短歌教室」を実施しました。短歌教室は、言語活動の充実につながる学習として、毎年行っています。ご存じの通り、短歌は五・七・五・七・七の31音で作られます。作者は限られた31音の中に、自分の気持ちや情景をよりよく表すために使う言葉を選ばなくてはなりません。これをじっくりと考えることで表現力も高まりますし、読み手の読解力や共感力を高めることにもつながると考えます。

今回、講師の先生から短歌を作る時のコツを教えてくださいました。それは、「短歌を詠んだ時、情景が1枚の写真のように思い浮かんでくるようにする。」ことです。このためには、直接的な表現は避けて、読み手が想像する余白を残しておくのがポイントなのだそうです。

例えば、夏休みにプールに行って楽しかったことを短歌で表したい時には、「プール」や「楽しかった」という言葉をあえて使わずに作ります。一方、読み手は限られた言葉の中から場所や風景、表情等を想像して、作品の情景を写真のように浮かび上がらせるのだそうです。なかなか難しそうですが、子供たちは、どのような言葉で表現しようか真剣に、そして楽しそうに考えていました。

また、指で音の数を数えながら、「五・七・五・七・七のリズムにするために、「この言い方はどうだろう。こっちの言い方だとどうなるかな。」と何度も繰り返して吟味している様子も微笑ましかったです。思うような言葉が見つからずに悩んでいる児童も、講師の先生から少しヒントをもらって、ハッとひらめいて鉛筆を動かしていました。

本来であれば、児童が作った短歌をいくつか紹介したいところですが、子供たちが作った全ての作品は、「しきなみ子供短歌コンクール」に応募します。応募する前には作品を発表できないようですので、ご了承ください。お子さんがどのような短歌を作ったのか、ぜひご家庭でお聞きになってください。

日本語の豊かな表現に触れた9月が終わりました。校庭からは、全力で走る友達を応援する声が聞こえてきます。さあ、次は運動会です。体を動かすことの楽しさ、全力を出し切った時の清々しさを実感する10月の始まりです。

「あいさつ標語（3年生の作品）」を紹介します！

3年1組 「あいさつをするとうれしい！気持ちいい！またしよう！」

3年2組 「目、体、声、心をきちんとして、あいさつをしたらエリートだ」

3年3組 「ありがとう・一人一人を大切に」の意味を忘れずに 世界中（みんな）のたから物」